

歴民館だより

展示場の風景

古代



考古



民俗



中世



近世



現代



近代



令和2年度を終えるにあたって

本年度は、昨年から続く「新型コロナウイルス」の影響を大きく受けた1年でした。出水歴史民俗資料館は、感染防止のための臨時休館。また、開館以来継続実施していました古文書解読入門講座をはじめ、歴史講座、「出水史談会」定例研究会等の中止という対応を取らざるを得ない状況となりました。

幸いなことに、感染防止対策を講じながらも、特別展や子どもたちの体験活動、一部の学校での出前講座は実施することができ、最低限の務めは果たせたものと思います。

令和3年度は、コロナが収束し、これまで以上の役割を果たせることを祈願します。ご理解、ご支援まことにありがとうございました。

出水歴史民俗資料館

出水市本町3番14号
中央図書館2階
☎ 0996-63-0256(直通)

高尾野郷土館
古城画伯コレクション館

出水市高尾野町大久保
158番地5
☎ 0996-82-1467(直通)

野田史料館

出水市野田町上名6094番地1
野田図書館内
☎ 0996-84-3100(図書館)

収蔵庫の世界から

図書館2階にあります出水歴史民俗資料館では、約1,000点の展示資料により、郷土出水の歴史や文化を紹介しています。

けれども、当館が所蔵している資料は、展示されているものだけではありません。収蔵庫の中には、多くの貴重な資料が保管されています。今回、その中から代表的な資料を紹介します。

『出水衆中軍役高帳』

出水の江戸時代を研究する上で最も重要な基礎史料として高く評価されていて、現在『第2番』から『第88番』までのうち、41巻129冊が収蔵庫に保管されている。

『軍役高帳』は、本来個々の武家に課せられた「軍役（戦いの任務）」を米の高（量）で示したものだ（乱暴な言い方をすると、出水郷土の給料一覧表）が、後には、当主の名以外に兵士となる男子全員の名も列記されるようになり、また郷土家の収入（高）のほか出生、死亡、養子、分家など、家族構成等に関する記録も掲載される等、戸籍台帳的性格も帯び、近世期出水郷土の暮らしについて貴重な情報を提供する史料となっている。

これまでに15巻が解読され活字本として出版されているが、現在『第8番軍役高帳（平成24年）』の発行を最後に解読出版事業は停止している。



今回の紹介は、古文書に限りませんが、その他に民具や複数の郷土家から寄贈された歴史資料等も所蔵しています。

資料館の果たすべき役割はいくつかありますが、最も大切なことは資料の保存であると言えます。手立てを講じなければ失われるかも知れない大切な宝を、確実に未来に引き継ぐとともに、その価値を追究する資料館を目指します。

『竹添家文書』



竹添家は、出水外城（郷）の最高役職である嚙（郷士年寄）役などを代々務めた家柄である。

そのような関係から、竹添家には

多量の古文書が残され、現在収蔵庫に保管されている。

竹添家文書は、大きく2種類に分類することが可能である。

一つは、竹添家そのものに関する文書群である。日記、私信や竹添家への役職辞令、あるいは竹添家で読まれた古書等の類である。

他の一つは、嚙役所等から廃棄されて竹添家に流れ出た行政文書である。出生届、死亡届、養子証文など多種多様な公文書の類である。

これらの『竹添家文書』は解読作業が進み、これまでに『諸届書（平成7年）』『幕末動乱期の世相（平成11年）』『竹添弥八兵衛日記（平成12年）』翻刻本として出版されている。

『伊藤家文書』

伊藤家も竹添家同様、出水外城（郷）における指導的立場の家柄である。中でも幕末期の当主であった伊藤四郎左衛門祐徳は、出水嚙役の中心的役割を果たす共に、明治維新（戊辰戦争）では薩摩藩番兵一番隊隊長として京都、会津等に出陣している。維新後は、郡長等地方官僚として郷土の歴史に大きな足跡を残した人物である。

収蔵庫には、伊藤家歴代当主青年期の日記（未刊行）や祐徳がペリー来航時に江戸警備の為に出府した際の日記（平成4年刊行）のほか、祐徳が出水の郷土たちに出先から送った書簡（未解読）が残されている。

